



ちょっと挑戦・11音

オカリナで「きよしこの夜」を吹こう

「きよしこの夜」のオカリナのドレミ（色分け）、楽譜、運指図、音を聴きながらの練習。

1818年、フランツ・クサーヴァー・グルーバーによるオーストリアのクリスマスキャロル「きよしこの夜」。ゆったりした3拍子で、高いファまで届きます。使う音は11つ：ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド'・レ'・ミ'・ファ'。

音とリズム

長いブロックは長い音、縦の線は小節の区切りです。

楽譜



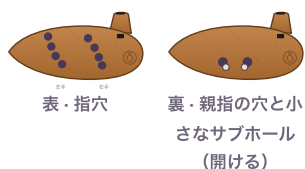
ト音記号の五線譜。各音の下にドレミを書いています。

ドレミで書くと

ソ ラ ソ ミ ソ ラ ソ ミ レ' レ' シ ド' ド' ソ ラ ラ
ド' シ ラ ソ ラ ソ ミ ラ ラ ド' シ ラ ソ ラ ソ ミ
レ' レ' ファ' レ' シ ド' ミ' ド' ソ ミ ソ ファ レ ド

オカリナの運指

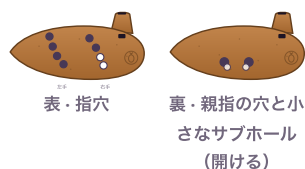
ド・低いド



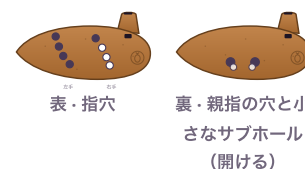
レ・低いレ



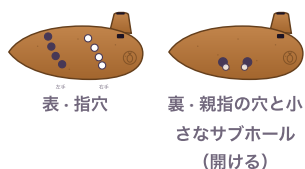
ミ・低いミ



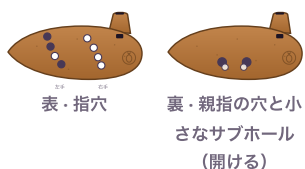
ファ・ファ



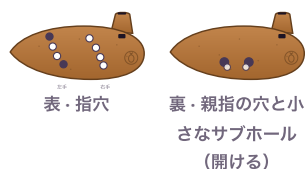
ソ・ソ



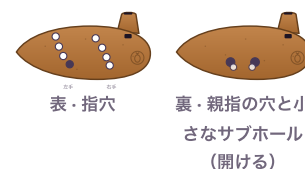
ラ・ラ

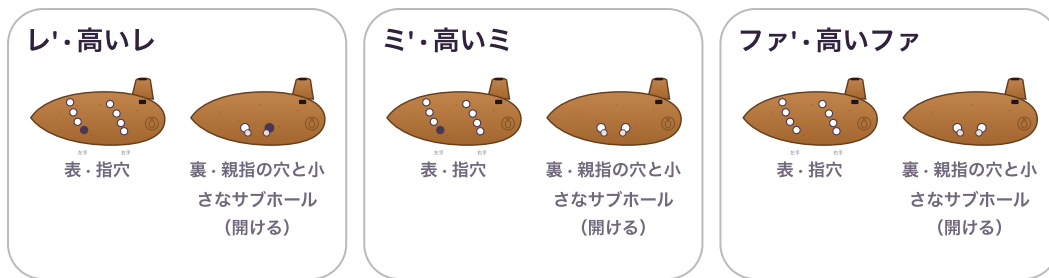


シ・シ



ド'・高いド





「きよしこの夜」を吹くコツ

- 一音一音、舌でやさしく区切って始めましょう（「トゥー」「ドゥー」とささやくように）。
- 穴は指先ではなく、指の腹のやわらかいところで完全にふさぎましょう。
- オカリナの音程は息で変わります。弱く吹くと低く、強く吹くと高くなります。
- 低い音にはいちばんやさしい息が必要です。低い音が揺れたりピーと鳴ったりしたら、息を弱くして、下のほうの指が穴を完全にふさいでいるか確かめましょう。
- いちばん高い音には、しっかりと集中した息が必要です。息を少し強めにして、オカリナを水平に保つと、息の流れがきれいに分かります。